

交通インパクトと都市・地域社会の構造変動(2)

——つくばエクスプレス沿線地域の事例分析——

玉川大学 小山雄一郎

1 目的

本報告の目的は、つくばエクスプレス（以下 TX）三郷中央駅の開業が埼玉県三郷市の地域社会へもたらした社会的インパクトについて、同市で実施した量的な調査票調査の結果をもとに考察することである。今回は主に、TX 三郷中央駅開業後に現住所へ転居してきた層とそれ以外の層の間にみられる様々な差異を確認することを通じて、同駅の開業がもたらした人口流入の諸相を明らかにするとともに、そうした流入層が、地域社会構造の再編をめぐってどのような影響を与えているのかを検討したい。

2 方法

研究に当たり、2016年10月から12月にかけて、18歳以上の三郷市民を母集団とする調査票を用いたサンプル調査を実施した。対象サンプルについては、選挙人名簿を台帳とし、三郷中央駅および首都高速道路三郷 IC からの距離を考慮して抽出した10選挙区から、各選挙区の登録人数に比例させた形で1,200サンプルを無作為抽出（系統抽出）した。調査票の配布・回収とも郵送法により行い、有効回収票数は590票、有効回収率は49.16%であった。

交通環境や関連開発の地域に対する効果・影響を考える上で、今回は現住所への居住時期に着目した。1985年以前から現住所に居住している人々を第Ⅰ期居住層、JR 武蔵野線新三郷駅が開業し、三郷 IC の供用が始まった直後の1986年から TX 開業前までの期間に現住所へ転居してきた人々を第Ⅱ期居住層、三郷中央駅開業後から現住所に住み始めた人々を第Ⅲ期居住層として、層別に基本属性、交通利用状況、日常生活圏、社会的ネットワークの量、居住地区および市の施策に対する意識などの比較を行った。

3 結果

三郷中央駅開業後に現住所へ転居してきた第Ⅲ期居住層について見てみると、年代では30代・40代、職業では専門・技術職、事務職、販売・サービス職などの職種の比率が高く、東京都内ではなく東京近郊（三郷市以外の埼玉県・千葉県・神奈川県など）あるいは東京圏外から転居してきた人が相対的に多かった。最もよく利用する鉄道路線については TX の利用者が75%以上であり、通勤先は東京都内が過半数を占めている。他層と比較して東京都23区内での余暇活動の頻度が高く、買い物場所として東京都内（およびインターネット等を介する通信販売）を選択する傾向も相対的に強い。近所づきあいの程度、居住地区への愛着度や地区貢献活動への参加意向、また行政運営への市民参加志向は他層と比べると低く、地域問題への対処に当たっては行政サービスを中心とする専門サービスへの期待度が高かった。社会的ネットワークでは、他層よりも市内の親しい親族数と友人数が少なく、埼玉県・東京都以外に居住する親しい友人の数が多くなっている。三郷市の施策に関しては、自由記述項目も参考にするならば、三郷中央駅周辺に関するバランスのとれた開発への要望が強いといえる。

4 議論

以上のように、第Ⅲ期居住層は地域との関係性が弱く、都市的生活様式への依存度が高いため、特に地域志向の強い第Ⅰ期居住層との混住地区では、地域活動や生活問題処理の方法をめぐって軋轢が生じないよう、コミュニケーション上の工夫が必要となるであろう。